

# 登山月報

JMSCA 登山月報 第660号 令和6年3月15日発行



「新緑の中に見事な岩壁を見せる鋸山北面」 写真撮影 植草勝久

8月11日 みんなで山を考えよう!  
祝「山の目」  
全国「山の目」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

## No.660

第59回全日本登山大会千葉大会 (TOZAN FES 2024inCHIBA) 報告	2
SKIMO 2月2～5日 ワールドカップ報告	4
SKIMO 2月17日 宇奈月温泉 SKIMO次世代体験会	5
鳥取県大山 令和5年度 氷雪技術研修会、主任検定員A養成講習会、コーチ2養成講習会報告	6
Enjoy Climbing	7
映画紹介	8
滋賀県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動	9
UAAA(アジア山岳連盟)総会・ネパール山岳連盟50周年記念式典のご報告	10
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば	10



# 第59回全日本登山大会千葉大会 (TOZAN FES 2024inCHIBA) 報告

令和6(2024)年2月17日(土)～18日(日)の2日間で、第59回全日本登山大会千葉大会 (TOZAN FES 2024inCHIBA) を千葉県富津市の浜金谷地区および房総の山々で開催しました。令和元(2019)年9月に岐阜県で開催以来、4年ぶりです。



2019年9月の15号台風により房総の山々は甚大な被害を受け、倒木や崩落等で山に立ち入ることもできない状態になりましたが、県内登山3団体で房総の山復興プロジェクトを立ち上げ、多くのボランティアの協力を得て登山道の復旧に取り組み、4年かかりましたが主要な登山道の整備が完了し皆様をお迎えする準備が整いました。

今大会は従来と趣を変え、登山イベントだけでなく一般登山者にも広く登山の楽しみを知っていただけるよう、登山用品メーカーブース、トークショー、救急法の講習会、トレラン等を、旧金谷小学校を主会場として開催しました。

## 【全体参加者】

加盟団体：53名、一般登山者：46名

千葉県スタッフ：44名、合計：143名

(トレラン+メーカーブース設置関係者は、独立採算で協賛会社が担当)

他メーカーブース見学者、トレラン参加者、協力者の合計では約1,700人が参加いただきました。

【後援：千葉県、千葉県スポーツ協会、富津市、鋸南町、鴨川市、南房総市、富津市観光協会】

## 【開会式】



丸会長：開会の挨拶

2月17日 鋸南町立中央公民館にて主催者挨拶を丸会長、岩崎会長が行いご来賓の祝辞を富津市長の高橋恭市様、鋸南町長 白石治和様よりいただきました。

## 【登山イベント】

### ● Aコース「花嫁街道」

「むかし花嫁が歩いたみち」をたどる



(所要時間：約5時間)

案内：千葉県高体連5人+救護1名、加盟団体：9名、一般：6名、合計21名参加しました

### ● Bコース「鋸山」

鋸山の一等三角点を訪ね「東京湾を望む道」を歩く



(所要時間：約4時間半)

案内：嶮登高会4名+救護1名、鋸山ガイド：1名、加盟団体：20名、一般：4名、合計30名参加しました

### ● Cコース「御殿山・大日山」

椿のトンネルをくぐりヤマトタケルゆかりの山を散策する



(所要時間：約4時間)

案内：ならしの山の会：2名・京成山岳部：3名+救護1名、加盟団体：7名、一般：18名、合計31名参加しました



● Dコース「鎌倉古道・房州アルプス」

梨沢七ツ釜を周回する鎌倉古道、房州アルプスを歩く



(所要時間：約5時間)  
案内：日本山岳会千葉支部：4名+救護1名、加盟団体：4名、一般：18名、合計26名参加しました

「メーカーブース」協力メーカー 38社

メーカーブースの見学者：2日間合計1,000人以上

- 17日 600人以上+登山イベント参加者
- 18日 400人以上+登山イベント参加者+トレイルラン参加者



38社の登山用品メーカーが集結。手作品も手に取って見られました



校庭ではテントも勢ぞろい

「トレラン」

参加者：シングル 293名(男子231名、女子62名)  
完走率100%  
ダブル 212名(男子189名、女子23名)  
完走率93.4%



トレラン スタート



田中正人氏によるトークショー



山での応急手当講習会。  
フィジカル接骨院 HOPE 左右田院長



「交流会」フィッシュにて81名で開催



「聖杖引き継ぎ」  
千葉県から新潟県へ



体育館前で地元のキッチンカー「おらが市」のにぎわい

房総復興プロジェクト写真展



「閉会式」

2月18日15時より閉会式を行いました。

4年間のブランクのあとに初めて千葉県で混乱もケガもなく開催できたことありがとうございました。

全国の加盟団体参加者の皆様  
メーカーブース協力者の皆様  
トレラン協力者の皆様  
後援市町の皆様  
千葉県スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

来年度の新潟県山岳協会の皆様、  
よろしくお祈いします。

(千葉県山岳・スポーツライミング協会  
理事長 蛭田 伸一)



岩崎会長：閉会の挨拶



# SKIMO

## 2月2～5日 ワールドカップ報告

2024年2月2～5日、スイスのVillars-sur-Ollonで第4戦のワールドカップが行われました。

オリンピック種目であるMIXED RELAYの開催は今期3回目となります(ワールドカップ第2戦のアンドラ・Arinsal大会はIndividualとVertical種目のみ実施)。この大会で島徳太郎・田中友里恵ペアがA決勝に残り、アジアでも初めて8位と好成績を収めました。

今回のコースはスプリント的要素が強い短めのコースで、ミスを少なくすることが課題でした。途中、1周目と2周目がクロスするコースで、ミスは許されません。また斜面も固く、そしてスキー滑降コースは狭く、凹凸も多く大変テクニカルでした。

今期に入りチームジャパンにおけるMIXED RELAYは、波乱万丈でペアが入れ替わってきました。初戦ではコースミスで失格となるペアもあるなど、なかなか実力が出し切れませんでした。その中で遠藤健太・上田絢加ペアは二人でインスペクションを回ったり、密にコミュニケーションを取りながら、正確さを求めています。その結果、初のA決勝進出で11位に入りました。

日本にとって成果を出すには、この正確さとトランジット(登攀と滑降の切り替え動作)の精度を上げること。そしてチームワークしかないと、2回目、3回目の大会で積み上げていきました。トランジットの精度を上げるために、他国のシールの準備の仕方を研究したり、ワンピースを新しく自分たちが使いやすいように工夫したりして、数秒ずつ短縮しました。また、選手同士で毎日話し合い、練習も指摘しあい、改善点が有れば共有しながらミーティングを行ないました。現在のチームワークも良く、そのような選手全員での積み上げが、今回の島・田中ペアが8位を収めたという結果をもたらしたと思います。

MIXED RELAYは総合力が問われるということが結果からわかります。1戦目はフランスが優勝。2戦目はイタリア。3戦目はスペイン。まだこれから精度を上げること



により、日本が入賞圏内を狙えることも視野に入ってきます。

その他、SprintとIndividualの種目も行われました。どちらも個人種目で、Sprintはオリンピック種目です。オリンピックになれるのは、様々な関門があり、世界で男女18人ずつ。そんな狭き門ですが、まず島徳太郎選手がこのVillars-sur-Ollonでは参加選手70%以内に入りました。まだ、アジア枠の詳細が決まっていませんので、何人出られるかは分かりませんが、選手が一丸となって、自分のために、チームのために戦い続けています。

そして残念ながら、一度は決まったオリンピック種目でしたが、外れてしまったIndividual。こちらも3名の選手が参加し、正確さを活かしてトランジットで前の選手との差を詰めたり抜かしたりするなど、こちらも少しずつ進歩しています。

今シーズンのワールドカップは、残りはイタリアのCortina d'Ampezzo。まずここでのペアは、イタリアのVal Martelloでの成績と、さらに日本選手権のMIXED RELAYのタイムトライアルの結果により、3チーム出場を予定しております。応援して下さいる方々に良い結果をお伝えできるようにSKIMO Japan Teamは今後も課題を持って取り組み、前進していきますので、ご支援宜しくお願い致します。

(SKIMO 日本代表コーチ 堀部倫子)



# SKIMO

## 2月17日 宇奈月温泉 SKIMO次世代体験会

今期2回目となる体験会は、地元富山を中心とした参加者の笑顔があふれながら取り行われました。

場所は、富山県宇奈月温泉スノーパーク。ここで2024年2月18日に日本選手権のIndividualレースが行われ、その前日の17日に今回の体験会が行われました。

参加者は地元の大学生、小学生、親子。遠くから兵庫の学生も参加しました。また、地元の新聞社やテレビの取材も入り、周知して頂きました。前回は競技に興味を持った子ども達为中心でしたが、今回の声掛けで集まったのは楽しむために登ってみたいという参加者。すそ野を広げるためにさまざまな参加者が集まり、そして地域密着であるというのはJMSCAの強化チームやコーチとして、とてもうれしく思います。

体験会は、まず「SKIMOとは何?」「どうやって登るの?」「アルペンスキーと用具は何が違うの?」といった基本知識から始めました。SKIMOのギアは見るのも初めてのため、「ブーツのフロントだけ固定して、シールを付けて板をまっすぐして登れるんだよ」と伝えてもまだ半信半疑のようでした。

それでは実際に体験してもらおうと、板を持って、ブーツで歩いて外に出てもらった瞬間に、軽い!歩きやすい!とまず感激。板をビンディングに付けるときには、小さな凹凸にブーツを合わせることに苦戦しています。なかなか入らないのを目の前でコーチたちがセットしたので、それを見て一生懸命練習し、入らない!むづかしい!でも楽しい、と相反する言葉も上がっていました。

その後は選手が登っている斜面での登攀にトライ。ジグを切って登ってみたり、直登したり。自分自身が真っすぐ登れる事に驚きを隠せない様子です。登れる事が楽しくなったのか走ってもしました。

ゲレンデトップまで登りきり、次はスキーで滑りま



す。実際、参加者の半分はスキーは得意ではなかったり、久しぶりのスキーだったり。軽いスキーに戸惑いながらも、転んでは立ち上がり、そして笑ってと、心から楽しんでいる姿を見て、これが本来あるべき姿であり、体験会の真意でもあると思いました。

最後に、2つのチームに分けて、リレー形式で2つのチームに分けてポールを回って帰ってくるという簡単なレースを行ないました。仲間の為にしっかり自分自身が頑張っている姿を見て、これが本来あるべき姿であり、体験会の真意でもあると思いました。

最後に、2つのチームに分けて、リレー形式で2つのチームに分けてポールを回って帰ってくるという簡単なレースを行ないました。仲間の為にしっかり自分自身が頑張っている姿を見て、これが本来あるべき姿であり、体験会の真意でもあると思いました。

今回の日本選手権には、12月の白馬での体験会に参加して、楽しいからと参戦してくれた12歳の中学生もいます。また、去年は本大会を応援に来ていた中学生の女の子もいました。去年の八方パーティカル大会で体験してもらい、経験を積んでもらい、2人ともバックカントリーのテクニカルなコースを滑降し、気温が上がって崩れやすくテクニカルになった斜面の登りも完走しています。感想を聞くと、「難しかったけど、楽しかった!」と言っていました。

体験会に競技要素を盛り込む一方、本来の一番のモチベーションである「楽しいからこのスポーツをしたい!」という気持ちを忘れずに、今後ものびのびと育っていく環境を整備して未来に繋げていきたいと思えます。今後も活動が続けていきますので、ぜひ興味がある子どもたちにお声がけ頂けますと幸いです。

(SKIMO 日本代表コーチ 堀部倫子)





## 鳥取県大山 令和5年度 冰雪技術研修会、主任検定員A養成講習会、 コーチ2養成講習会報告

令和6年2月3日(土)～4日(日)

鳥取県大山において冰雪技術研修会および主任検定員A養成講習会、コーチ2養成講習会が大山自然歴史館および大山南光河原にて開催された。

今回は研修10名、A級主任検定1名、コーチ2養成講習2名、講師2名、鳥取県スタッフ6名の計21名での開催となった。

今年の大山は1月下旬、日本海で降雪があり講習には十分な積雪があり、両日とも天候に恵まれ、また、関西、中国、九州、北陸からも参加者があり、充実した講習が行われたものと思います。鳥取県山岳・スポーツクライミング協会の皆様には事前準備からご尽力いただきまして誠にありがとうございました。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(指導委員会 野村善弥)

### 受講生感想

#### 熊本県 あそ望山岳会 澤田 佳子

2月3、4日に大山で行われた冰雪技術研修では、スタンディングアックスブレイ、滑落停止、支点構築など、雪山で必要とされる技術について学びました。講師の堤さんの親しみやすいお人柄と、身につくまで繰り返し練習するというブレない姿勢が参加者のやる気を起こさせていたと思います。ひとりひとりの様子を見ながら、どこを直せばできるようになるのか、それが難しい場合は今回の研修では何を目標にして訓練するかなどを声かけしながら進められていたので、時間に追われて、できるつもりになって終わるのではなく、自分でできることを確認できるまで取り組むことができました。これはとても良かったと思います。私自身は、滑落停止訓練は何度かやったことがあるのですが、回転して落ちながらアックスを打つというのは初めてで、トライするたびに姿勢やタイミング、動作など具体的な修正点を教えていただいたので、こうすれば大丈夫という確信が持てて自信になりました。

貴重な学びの機会をいただきありがとうございました。今後の活動に生かしていきたいです。

#### 福井県 福井山岳会 長井 浩太郎

現在、時代の変化により、昔日のような山会の運営は難しくなり、各山岳会も高齢化が進み、ネットにより簡単に情報が手に入る時代になっています。



その結果、SNS等の成功体験情報が先行し、より容易に山に立ち入ることができる世の中になり、俗に言う誰がリーダーか判然としないSNS登山グループの出現、基本技術を習得していない登山者の増加等々、従来の山文化の伝承が難しくなっています。

さて、私自身、過去を振り返ると山により、人生は豊かになったと断言できますが、年齢も上がり、自身が楽しむだけでなく、お世話になった先輩の意思を繋ぎ、山文化の伝承に少しでも貢献できればとの想いから、所属する県岳連やJMSCA遭難対策委員会等に携わる機会を頂いています。前置きは長くなりましたが、今回コーチIIの講習を受けるに当たり、JMSCAの指導委員会の方々をはじめ、鳥取県連の皆様には大変お世話になったことを先ずもってお礼申し上げたい。皆様のご尽力を無駄にしないよう指導者としてレベルアップできるよう努力し、少しでも山文化の伝承に貢献したいと思っています。堤講師の「山は基本をしっかり身につける。しかし、基本だけでは駄目だ。それは、天気が良い時の話。」→適応力(引き出し)を磨く、野村委員長の「初心者は、何も知らない、教えても伝わってなければ、伝え方が間違っている。」→講習生の目線まで下りて教える。まさにそのとおりだと思います。また、皆さんにどこかでお会いできることを楽しみにしています。ありがとうございました。



## 2023ペルーアウサンガテ遠征 概要報告 連載③

遠征期間：2023/4/18-6/10

山 域：ペルー クスコ地方 ビルカノタ山群

メンバー：鈴木雄大 (au FG、稲門山岳会、札幌北後クラブ所属/28)

成田 啓 (北大山の会所属/26)

ル ー ト：アウサンガテ北壁初登攀「Japonés Directo」  
(ハポネス ディレクト)。

1100m - 5.10a, WI6 (同時登攀も入れて36p分)

### ●考察

今回、アウサンガテ北壁の登攀が成功した要因として、以下の事柄が考えられる。

#### ①遠征時期の選定が適切であった。

→気候の項でも述べた通り、今回は時期が進むにつれて壁の氷が消滅し登攀が困難になることが予想された。その為、一般的な登山適期からおよそ1か月早めたが、これが功を奏した。遠征出発前は時期が早すぎて天候が安定せずまともなトライができないなどの不安があり、また、現地でも時期が早すぎるためノーマルルートからの登頂すら厳しいと言われたが、それらはすべて杞憂に終わった。5月に入ると強烈な日射による融雪、解氷が一気に進み、順応前と本トライ時では壁の状態も大きく変わって見えた。おそらく1週間でも登攀時期が遅くなっていたら登攀難易度はさらに上がっていただろう。

#### ②ルート of 地理的特性を把握し、それを考慮した登攀ラインと通過時刻を設定できた。

→今回の登攀ラインは、壁の弱点として氷雪のクーロワールを選択した。しかし、クーロワールは落石、落水、雪崩等の落下物が集約される地形でもある。前述したように日中は日差しによって大量の落下物が予想されたので、特に危険な下部では夜間登攀を行った。結果として2ピッチ目でいきなり雪崩まがいのスノーシャワーを食らってしまったが、それ以降は比較的安全な(強点でもある)岩壁、クーロワール内の端や岩陰、リッジ状を通過することをより心がけたことにより、落下物に悩まされることは無くなった。また、屋近くになると落下物が増え、緩んだ雪によるラッセルも酷くなったため無理せずビバークとした。

#### ③安全かつ快適なビバーク地を選定できた。

→②に通じるものがあるが、今回のビバーク地は全て落下物から完全に守られ、かつ2人とも横になれる快適な場所であった。これにより精神的、肉体的に大幅に



最後の稜線直下のトラバースを終えホッとする成田。写真=鈴木雄大

回復することができた。

#### ④危険地帯を素早く通過できるシステムを採用した。

→ベースからの偵察で、クーロワール下部の氷が薄く急峻なパートと上部氷瀑が技術的核心で、それ以外は単調な雪壁登りになるという見当をつけていた。その為、上記核心部以外はナノトラクション及びタイプロックを使用した同時登攀を積極的に行い、登攀スピードを上げた。

また、今回は比較的直線的なラインどりが予想されたため、クライミングロープとしてシングルロープであるベアール・ジョーカーゴールドンドライ9.1mm×60mを使用し、困難な箇所でのフォローのユマーリング及び懸垂下降用にスタティックロープのペツル・ピュアライン6mm×65mを携行した。これによりロープ操作がシンプルになり、同時登攀と隔時登攀の切り替えもスムーズに出来た。

これらによってクーロワール内で立ち止まる時間をほとんど無くすることができた。

#### ⑤軽量化

→言うまでもないが、装備はできるだけ軽量なものを使用した。また、プロテクション類は必要最低限のものを持参し、過不足はなかった。

食料は朝晩はアルファ米、行動食は菓子類1000kcal前後を携行した。アルファ米の分量はC1は100g、C2は80g、C3以降は60gとした。高所の影響による食欲の減衰もあり、空腹感はなかった。また、行動食は少し余る程度であった。

#### ⑥氷雪登攀能力及び冬季装備での岩壁登攀能力

→鈴木、成田ともに北海道を中心にアイス、ミックスのトレーニングを積み(W16、M10程度)、氷が存在していれば確実に登れるという自信は持っていた。特に、日常的にM8以上のミックスルートに触れていれば、垂直前後の氷ではいくらかでも粘れるようになると感じる。

鈴木は直前にカナダでポーラーサーカス等、成田は日高・コイカク沢や甲斐駒アイスソロ継続などで長く



傾斜の緩い氷(全て標高差600m以上)を登る経験を積んでいた。これらのクライミングは海外のアルパインクライミングでしばしば出てくる60度前後の氷を無限に登る能力を養うのに役立つ。しかし、これに関してはより重点的にやってもよかったと感じる。北海道では層雲峡のマルチピッチをひたすら往復、継続するトレーニングも有効だろう。

また、神威岩ドライツールング、冬季小樽赤岩、錫杖、滝谷などで冬季装備(アイゼンやテムレス)での比較的テクニカルな登攀(安易に落ちれない状況での5.10a程度)に慣れ親しんでいたことが下部岩壁での登攀で役に立った。特に小樽赤岩ではアプローチの至近さにも関わらず1月~2月の厳冬期には本格的かつテクニカルな冬季登攀のトレーニングが行える。道内クライマーにはかなりおすすめだ。

また、今後に向けての課題としては以下のものが挙げられる。

### ①体力

→今回、壁の中での1日の最大獲得標高は2日目の550mで、行動時間は11時間半であった。つまり、時速48mとなる。そのうちスタカットは2ピッチで、それ以外は同時登攀であったことも考えると、お世辞にも早いとは言えない。上部氷瀑の登攀に3時間半(これも早いとは言えないが)かかったことを抜いても450mを8時間、つまり時速56mとなる。勿論、ラッセルや高度障害などの影響があるためこれを遅いと言い切ることはできないが、改善の余地があるように感じる。

体力と言っても何日も壁の中で動き続ける長時間行動系の体力と、ある区間をスピーディーに行動するランニング的な体力があるが、このどちらもまだアス

リートと呼ぶには程遠いレベルであると今回改めて実感した。前者については、アプローチの遠い壁を1日で登り切る、アプローチの近い壁を1日で何本も継続する、そしてそれを複数日連続で行う等のトレーニングを実践してきたが、強度が足りなかったように感じる。特に北海道の冬壁やアイスアプローチがあまりにも近いものが多く、意識して継続登攀を行わなければトレーニングとしての強度が不足してしまいがちだ。後者についてはトレイルランニング、水泳等によって純粋な心肺機能を向上させるトレーニングが考えられる。今回は特に上部の雪壁ですぐに息が上がってしまったため、心肺機能の強化は特に重視していくべきだと感じた。

### ②純粋なロッククライミング能力

→今後、地球温暖化が進むことによって、世界中のあらゆる壁はよりドライになっていくことが予想される。かつては氷雪に覆われていたセクションが岩壁となり、より高度なロッククライミング能力(特にトラッド)が求められることになるだろう。また、クライミング能力が向上することによって、アルパインクライミングにおけるラインの選択肢も増える。

### ③語学能力

→英語はもちろん、南米ではスペイン語ができなければ意思疎通が困難なケースが多々ある。言葉が通じれば、救助等の緊急事態や、町での情報収集、アプローチの交通手段の手配など、登山活動に関係する諸々がスムーズにこなせることに加え、何より町での人との交流がより充実したものになる。今回スペイン語でのコミュニケーションがうまくいかず、歯がゆい思いをしたことが何度もあった。



### 映画紹介

各国でロングランヒットを記録し、第96回米アカデミー賞国際長編映画賞アイスランド代表作品で、ショートリストにも選出された、北欧発のスリリングで壮大な人間ドラマ『ゴッドランド/GODLAND』を3月30日(土)よりシアター・イメージフォーラムほか全国順次公開いたします。

<https://godland-jp.com/>

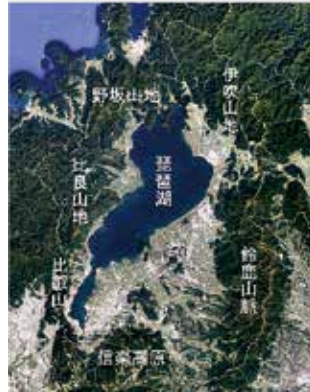


北欧で最も注目を集めるフィルムメーカーのひとり、アイスランドの気鋭フリーヌル・パルマソン監督による最新作で、「予測不能な展開に釘付け」「壮大なスケールに思わず息をのむ」と世界で絶賛されており、またアイスランドの絶景を堪能できる作品にもなっております。



# 滋賀県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動

滋賀県は、400万年の歴史がある琵琶湖を中心に、北部は滋賀県最高峰である伊吹山(1,377m)をはじめとする伊吹山地・野坂山地、東部は鈴鹿山脈、西部は比良山地に比叡の山並み、そして南部は信楽高原や甲賀丘陵に



囲まれている。気候的に見ると南部は太平洋型の温暖な地域であるが、北部や西部は冬に日本海からの北西の季節風により積雪量も多い日本海型気候であり、それゆえ山間部には豊かな植生が観察される。

滋賀県山岳連盟自然保護委員会では、滋賀県を湖北・湖東・湖南・湖西の4地域に分割し、そこに属する山岳地を踏査して、主に森林生態系を中心に植生や地質などの自然観察を通して滋賀の自然について研修を行っている。以下は活動の目的と方針である。

## 目的と方針

- 目的 ①野外での活動を通し自然に親しみ、地域への理解を深める。
- ②野外での活動を通し自然保護の意識を高められるようにする。
- 方針 ①地域の理解を深めるために県内および近隣府県の適地を選び、主にルートの調査、自然観察会や歴史探訪などを実施する。
- ②自然保護の意識を高められるようにするために山行中の清掃活動や自然保護に関わる研修会を実施する。誰もが取り組める内容を大事にする。

現在の活動では、滋賀県の自然を植物学的・動物学的・地質学的・歴史学的といったさまざまな視点で観察し認識・理解することをその骨子に据えているとこ



植生調査の様子

ろである。具体的には北中部に生育するブナ原生林、カエデ類・ツツジ類などの夏緑樹林、中南部に生育するシイ・カシ類などの常緑広葉樹林の種多様性や近年大きな問題となっているシカ被害状況の観察・調査、石灰岩地帯特有の近江カルストなどの地質調査を通した取り組みを実施しているところである。他県で精力的に取り組まれている「登山道整備」「植林」「外来種対策」といったSDGsな取り組みを意識した活動になっていないのが現状である。

近江盆地に限らず地球生態系は生物界も含めて長い歴史の産物であり、生物と環境が絶妙なバランスを保って持続している。私たち人間は、この自然を巧みに利用して生きているのだが、自然の美しいバランスを大きく崩すことのないよう配慮しなければならない。無謀な開発は自然を荒廃させるものであり、結局は人々の生活までも破壊してしまうことをわれわれは正しく認識しなければならない。

(滋賀県山岳連盟自然保護委員長 森田光治)



霊仙山に広がる、シカ害で露出が激しいカルスト地形





# UAAA(アジア山岳連盟)総会・ネパール山岳連盟50周年記念式典のご報告

JMSCA 会長 丸 誠一郎

2023年10月30-31日の二日間、恒例のUAAA General Assembly (the Marriot hotel in Kathmandu) に出席いたしました。今総会は、9か国から13人の会員、30人のNF代理出席人が参加し、UIAA (国際山岳連盟) から Peteer Muir 会長、UAAA 特別顧問の神崎忠男顧問も来賓として出席され、今、アジア各国のNFが抱える登山愛好者の高齢化、単独登山、ネパール、インドにおける、Mountain Protection (自然保護活動) について、活発な意見交換が行われました。

小職は、今JMSCAの登山部門において、抱えている課題について、スピーチ(5分)し、特にパンデミック以降急増した、国内の遭難事故と「雲の平」と「大山」における自然保護について、お話ししました。また、2022年に小野寺専務理事が日本の代表として約束してきたUAAA 30周年 in NIIGATA について、詳細に説明し、是非、歴史文化の里である「弥彦」にいらして頂きたい旨を、丁寧にお話ししました(内容は、右記QRコードをご参照ください)。また、小職の後、神崎特別顧問が、「高頭祭」の山岳歴史に関する背景と、その伝統文化について、画像をまじ

えてお話しされました。

翌11月1日は、ネパール山岳協会(NMA)の創立50周年記念式典及び祝賀会(the Army club)が開催され、神崎特別顧問はポカラ国際山岳博物館(2004年2月5日開館)の建設において、多大なる資金援助をされた功績、足立典子氏はネパールにおける長年の国際的厚生医療支援について、廣江研氏はネ日山岳友好活動への偉大なる貢献が讃えられ、ネパール民主共和ネパール民主共和ラム・チャンドラ・パウデル大統領(Rt Honorable President of Nepal Ram Chandra Paudel)から、感謝状が授与されました。この表彰に際し、神崎特別顧問は、UIAAのMuir会長、UAAAのIn-Jeong Lee会長等と共に国家軍が用意した花馬車に乗り市内をパレードし、カトマンズ市民、NMA、UAAA関係者の皆様と共に、祝典に花を添えました。

SpeechByMaruonUAAA\_GA2023



<https://bit.ly/3Va1tXN>

プレゼンスライド



<https://bit.ly/435QSix>



## JMSCA

令和5年度 第12回  
ハイブリッド理事会報告

- 日時：令和5年12月14日(木)  
14:05-19:40
- 場所：J S Oビル3F会議室1と  
Webのハイブリッド会議
- 出席者：丸会長、蛭田・飛松・吉田・  
山本各副会長、小野寺専務理事、古賀・  
赤尾・町田・望月・栗田(16:00から離席)  
各常務理事、小日向・佐藤・前田・野村・  
小高・中橋・水村・山口(16:15から離席)・  
島田・西谷・畑中・中島・平田・小田部  
各理事(14:35から離席)以上25名、古屋  
監事、以上1名
- 欠席：安井・濱田常務理事、樋口・  
杉本理事、佐久間監事

### 1. 開会

### 2. 丸会長挨拶

総会後6か月がたち、このような状況になってしまったこと、臨時総会、臨時常務理事会、理事会で、説明が至らず誤解をまねいてしまったこと、私のリーダーシップが、皆さんを安心させるものではなかったことについては、私の責任だと実感している。複数の岳連や、一部の理事から退陣せよと言われているが、短期借入れを行い、連帯保証責任を負ったこと、赤字解消の具体的な策ができていないことから、今基金を成功させることが第一優先とおもう。また、JMSCAにとってどうするのが良いのかということも考えている。基金による現金確保と債務超過などを乗り越えなければならない。一部顧問から、自分(丸会長)は、外部理事なので、岳連の窮状がわからないのではないかともしられており、3年半の経験では、皆さんの経験とギャップがあり、短期間でそれを埋めることは難しいが、JMSCAが一つになることが重要だと思いますので、ぜひご理解をいただきたいと思ひます。

### 3. 会議成立状況報告

理事数29名中25名出席(開会時)、監事数2名中1名出席(定款第33条、定足数=15名(1/2超、決議は出席理事の過半数をもって行う。))

### 4. 議長選出

丸会長が議長を務める(定款第32条)。

### 5. 議事録署名

会長及び監事(定款第34条)

### 6. 議題(注. 審議順に記載)

#### 議案第3号 岳連、協会推薦表彰者

小野寺専務理事が配布資料を基に説明し、賛成24名(議長を除く)で、承認された。

#### 議案第4号 指導委員会推薦者

小野寺専務理事が配布資料を基に説明し、野村理事が補足説明をし、指導委員会から推薦承認されている。

賛成24名(議長を除く)で、承認された。

#### 議案第5号 BJCの開催について

町田SC部長が、現状の説明をした。2月初旬に、佐賀県多久市で、ボルダ、リード、スピードの全種目を実施するとの方向に



なっている。正式に、承認されたら12/15にHPに案内を掲載予定。

B J C 佐賀の開催について採決を取り、以下のように承認された。

賛成23名、棄権1名(西谷理事)

#### 議案第6号 全国理事長会議について(日程確認)

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。議事は提案の通りで、日程をどうするかを協議した。

第一優先の2月10日は、B J Cの大会なら中座可能、また、部屋も確保済み。2月10日開催と議事の中身について賛否を取り、以下のように承認された。

賛成24名、棄権0名

#### 議案第7号 参与の推薦について(前監事 中島正喜氏)

小野寺専務理事と古屋監事が説明し、御本人から監事の責任を全うできなかったが、今後のJ M S C Aに寄与したいとの希望がある。

賛成24名、棄権0名

賛助会員としても、異議なく承認された。

#### 議案第8号 小田部理事をマーケティング担当にすることについて(丸会長)

丸会長が配布資料を基に説明した。すでにマーケティング活動の一環で以下のような実績があり、現行スポンサーの維持、開拓活動をやりやすくするために提案した。

\*スポーツクライミングでの貢献

\*選手マネジメントへの貢献

\*スキーマでのスカイAでの関係と、実績等について

質問：工数的な懸念がある。J M S C Aは、現契約を含め検討した方がよい課題がある。山岳スキー委員会の内部の役割分担についても次回、報告してほしい。

回答：次回理事会時に説明したい。

質問：委員会内の役割は何か。

回答：副委員長としてお願いしたい。

賛成22名、棄権1名(赤尾事務局長)

\*小田部理事が賛否に加わらなかったため23名で採決

畑中主管理事が、マーケティング委員長と協議し、合意したうえで、常務理事会に提案するというのが正規の手続きなので、その手順を踏むことが確認された。

#### 議案第9号 SKIMOについて(小田部理事)

小田部理事が、配布資料を基に以下の説明をした。

1. WCスペイン強化、スイス大会(1/22-2/7)

2. J O C 選手強化本部選手強化事業専門部に任命。J O Cに後日報告。

3. 日本選手権開催(宇奈月2/18、八方3/16,17)

4. 中国スキーマ招待大会報告

赤尾事務局長が、12-3月の事業内訳に、1,3の事業の金額の裏付けがない(執行伺い)と、承認できないので、提出をお願いしたいと伝えた。理事会として、2番は承認したが、1,3の事業については、年内に臨時常務理事会を開催し、そこで最終承認をすることになった。

#### 議案第2号について 基金設置取り扱い規程

望月常務理事が配布資料を基に説明した。日程と、募集要項(総額、一口当たりの金額、期限等)を決めていただきたい。

\*日程素案としては、2月8日理事会で正式通知、2月末払い込み、第1回目の告知と締め切りを早くしたい。

\*また、事務的な手続きについても承認をえたい。

\*加盟団体振興推進P T及び、加盟団体から、基金の安全性や返還手続きについて、懸念や反対の声が出ている。

#### 質疑応答

\*金額が集まらなかったらどうするのか。

\*預かった金額がそのまま基金となり、基金の総額が正味財産として計上される。

\*しかし、借入金を返却して、余剰金が出ないと返還ができない。

募集要項(案)の内容を確定する必要がある。

#### 募集金額について

キャッシュフローで足りない金額、あるいは、正味財産を満たす金額等が案としてある。

#### その他意見

\*早めに決めて、HPで公開したほうがよい。

\*クラウドファンディングについては反対の岳連もあるので、並行して対応していきたい。

\*予算を超えた執行は許されない状況。

\*今のままだと基金が集まらない。理事会の一致団結がないと難しい。

\*キャッシュフローの足りない部分を再確認して目標総額としてはどうか。事務局職員の退職金を確保する必要もある。

\*理事会最後に当分の採決を取り、基金設置にかかわる規程について以下のように承認された。

賛成18名、反対0名、棄権1名(古賀常務理事、栗田常務理事、小田部、小日向、平田、山口理事離席)

#### 報告第7号 近畿からの質問についての回答案について

丸会長が、回答案について説明した。

1. 助成金の補助金額の削減について

#### (回答案)

J O Cからの助成金の一方的な削減があったと6月総会時に伝えたが、赤字調査委員会の調査の結果、事務局と強化委員会とのコミュニケーション不足の問題から発生したことが判明した。今後、このようなことが起きないように原因究明と、なぜそうなったのか、責任の所在を含め、監事及び顧問弁護士により、責任問題の法的調査がおこなわれている。補助金については、総額だけでなく、強化委員会と事務局がカテゴリー別に使用金額を共通理解したうえで、使用していくことが必要である。

2. 規程を無視した理事や関係者が責任を取り、退任させた上で新規体制での対応が必要ではないか。

#### (回答案)

前競技委員長に競技の管理を任せた会長の任命、監督責任もあると理解している。責任問題を明確にしつつ、並行して、再建に向けた活動が第一優先と考えている。競技関係に利害関係者がいるとの件については、利益相反については、スポーツ庁の指針、規程に基づいて対応していく。今年度は、事前調査を含め、大きく改善されている。

当件を含む赤字検証委員会で指摘された責任問題の調査と追及は、監事と弁護士で進めている。

3. 基金設置による定款変更について反対された。

説明責任、責任問題が不明確な中で、定款を変更することに納得がえられていないと理解している。

4. 外部理事が増え理事会に、岳連の意見が反映されていない様に見える。将来像の議論がされていない中で、定款変更等が進めていることが問題視されている。

#### (回答案)

外部理事、女性理事の登用については、スポーツ庁、内閣府からのガバナンスのガイドラインや規程に基づいている。47都道府県の意見が反映していないとのことだが、N Fとしてはバランスをとりながらやっていかなければならない。

#### 議案第12号 臨時総会を受けての加盟団体振興推進プロジェクトチーム(以下P T)からの質問について

最初に、古賀常務理事が同P Tの成り立ちの説明をした。その後、以下の質問と回答が述べられた。

1. S C部が予算を無視した背景と対応状況について

古屋監事が以下のように説明した。予算管理規程で管理者となっている主管理事、担当理事、委員長が規程を守っていない。今、規程を無視した理事が誰かを特定している。12月中には責任問題の結論を出す予定。組織として許してしまった理事会、監事の責任でもある。組織の最終的な責任者である会長も対象となり、理事会で代表権を返上するかどうか、また、総会で理事のはく奪を決定するということも考えられる。

2. 旅費の予算を大幅に超えた執行(予算に対して10倍の執行実績)の件について  
旅費出張予算はあやふやで、詳細設定されていなかった。設定した予算も低すぎる。予算管理上行うべき、補正予算を組むなどの管理も、行わなかったということが問題である。出張先や出張者の取捨選択も十分でなかった。内訳を明確にしてくれという要望を出している、専務理事、事務局で提出可能な資料を提出する。

3. B J Cの開催場所について  
スポンサーへの違約金、開催場所が変わることによる違約金などが発生するとのこと理事会で協議されたが、事実はどういうことか。

#### (回答)

J M S C Aは、従来から優先予約の仕組みを利用してきた、一度キャンセルすると、その後の優先予約や再開は制約ができることは、今年夏に聞いていた。その後の詳細確認(9月ごろ)で、今年度キャンセルしても、次年度予約がはいってれば、開催予約は可能とのことだった。

#### (補足説明)

理事会が、正しい判断をするための正確な情報ではなかった。協議中に出された情報が正しくないため理事会内で不信感があり、その空気が、P Tや岳連に伝わっている。この不信感を払拭しないと先に進まない。

#### その他意見

#### (会長)

\*短期借入の連帯保証(5,000万円)以外に、自分の方で別途融資となると、個人では



- 日 時：令和6年1月11日(木)  
14:00-18:50
- 場 所：J S O Sビル3F会議室1と  
Webのハイブリッド会議
- 出席者：丸会長、蛭田・飛松・吉田・山本  
各副会長、小野寺専務理事、古賀・濱田・  
赤尾・町田・望月・栗田常務理事、濱田常  
務理事(15:25から参加)佐藤・前田・  
野村・小高・中橋・水村・山口・島田・西谷・  
畑中・樋口(16:50退席)・平田(15:45退  
席)・中島・小田部各理事以上28名、古屋、  
佐久間各監事以上2名
- 欠 席：杉本理事(体調不良のため)

## 1. 開 会

### 2. 丸会長挨拶

元日からの地震発生や、羽田空港の事故で関係される方々はご苦労が多かったのではないかと思います。厳しい環境の中心からお見舞い申し上げます。JMSCAとしても正しい運営をし、新春懇談会でも固い決意と結束を示していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

### 3. 会議成立状況報告

理事数29名中27名出席(開会時)、監事数2名中2名出席(定款第33条、定足数=15名(1/2超、決議は出席理事の過半数をもって行う。))

### 4. 議長選出

丸会長が議長を務める(定款第32条)。

### 5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

### 6. 議 題(注。審議順に記載)

#### 議案第1号 議事録の承認について

第12回、13回理事会議事録は事前送付が完了しておらず、未承認。来月の承認となりますがよろしくお祈りします。

#### 議案第3号 基金拠出について

望月常務理事が配布資料を基に説明した。基金目標金額として、年度末でキャッシュで足りない分としたが、追加で借入れている金額5000万円を返済して自走できるようにするというので、目標金額としてはと考えている。

申し込み期間は、明日1月12日から、2月23日まで、払込期日3月10日とした。目標金

ては小野寺専務理事に預けた。  
小田部理事：略歴書、JMSCAのビジネス  
とのかかわり、実績を説明。  
平田理事：JMSCAとの関係、実績等を説  
明。  
今後の課題として、  
利益相反の基準を作成し、事案ごとに判  
断できるようにする。  
具体的には、2023年度年度末を目途に作  
成、2024年から施行予定とガバナンス委  
員会の予定としている。

### その他意見

提示された内容だけでは判断しようがな  
い。業務委託契約で、社会的にやってよい  
こと、反社条項(反社会的勢力の排除に関  
する条項)が含まれていなかったのは不  
十分。また、当事が会長と専務理事だけに  
限定され、情報開示しなかったのはおか  
しい。今後、チェック機能をどう働かせる  
かがポイント。SC部内でも、検討してい  
ただきたい。

## 7. 報 告

### 報告第1号 月次報告について(キャッシュ フロー、資金配分)

赤尾事務局長が現状を以下のように説明  
した。2月で現金はなくなる見込み。行政  
からの補助金、退職金はまだ不確定なので  
キャッシュフロー計算に入っていない。ま  
た、SC強化、山岳スキーの最新見込も入  
っていないので、今後精査が必要である。

## 8. その他

12/26 P M 14-16:00で臨時常務理事会  
(後日理事会)を実施予定。

### 予定議題

\*山岳スキーの事業承認

\*常務理事会開始時間、内容等

尚、以下の報告は、時間切れで、割愛され  
た。

報告第2号 新春懇談会、日本山岳グラン  
プリについて(規程変更要)

報告第3号 博報堂レベニューシェアにつ  
いて

報告第4号 登山指導員認定承認について

報告第5号 SC指導員認定承認について

報告第6号 パラクライミング協会との協  
力について

報告第7号 近畿からの質問について返答  
(会長)について

報告第8号 日新火災海上保険バナー広告  
について

以上

令和5年12月14日 記録 赤尾 浩一

対応しきれないので、当初考えた自分から  
の融資はとりやめた。  
\*自分の性格を変えることは難しいが、岳  
連やPTからの質問には誠心誠意対応した  
い。  
\*近畿は、対面で話せる機会がえられれば、  
ぜひ直接訪問対話を進めたい。  
\*議案第12号に対する回答は、文章で出す  
予定。

### (他の理事の意見)

\*会長は、事実を特定の人に伝えるだけで  
なく、理事全体に共有していただきたい。  
\*問題は、岳連から基金があつまるかどうか  
ではないか。  
\*今後(将来)JMSCAはどうしていくか  
の協議は必要ではないか。  
\*今、現金を用意しなければならない中で、  
JMSCAとして、会長退任の動議を出し  
て、協議している場合ではないのではない  
か。  
\*丸会長からの正式な話がいただきたい。  
\*JMSCAのために、会長を支えたいと  
思っているの、会長から事実をそのまま  
説明して欲しい。  
\*会長には最終的には辞任してほしい。し  
かし、JMSCAの信用を失うわけにはい  
かない。任期途中は問題あり。  
\*どこかの時点で、辞任をせざるを得ない  
のではないと思う。それを条件に岳連に  
基金協力の話ができないかと考えている。

### 議案11号 組織管理運営規程の改定につ いて

古賀常務理事が配布資料を基に、定款に  
合わせた変更内容を説明した。

これ以外の変更(SC関係)を含め、全体  
確定したうえで、HPに掲載する。

構成団体、加盟団体の違いはなにか。定義  
を明確にした方がよい。

→加盟団体に統一する。

次回の理事会で、当規程の再度承認を得  
ることになった。

### 議案10号 検討事項——利益相反について (丸会長)報告事案

丸会長が配布資料を基に、業務委託契約  
に至る経緯を次のように説明した。

競技副委員長：競技会に関する使用時間、  
コスト、競技会の改善可能性を提案した。

競技委員長：理事としての業務はできな  
いとの希望がある。競技の仕事は一人では  
うけられない。副委員長も一緒になければ  
成り立たない。

その後、上記2名の業務委託契約につい

## 寄 贈 図 書

(公社)日本ネパール協会	「会報」2024年春号 No.264	会 報	特定非営利活動法人全国少年女子レスリング連盟 連盟創立40周年記念誌発行にあたり	会 報	
(公財)日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」Vol.155、156 「JSPOフェア プレー」Vol.155、156 「JSPOスポーツ医・科学info」	会 報	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」2024 3月号 No.1074	情報誌
日本勤労者山岳連盟	「登山時報」冬号 No.582	会 報	株式会社オービックビジネスコンサルタント	「奉行EXPRESS」2024WINTER通巻台108号	情報誌
(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.550	会 報	東京野歩路会	「山嶺」Vol.101 No.1128	会 報
株日本運動員新報社	「スポーツ産業新報」第2423号、第2424号、第2425号	新 聞	おいらく山岳会	「山行手帖」No.771'24.3	会 報
(一社)愛知県山岳・スポーツクライミング連盟	「愛知岳連ニュース」第451号	会 報	(公社)日本山岳会	「山」2024年(令和6年)2月号 No.945	会 報
(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.408	会 報	(一財)日本防災・防災協会	「地域防災」NO.54	会 報
株式会社ネイチュアエンタープライズ	「岳人」2024 March No.921	情報誌	女性スペースを守る諸団体と有志の連絡会	「トランス女性性「女性」ってほんと？ 女性スペースを守る法律を！」	会 報

額に満たない場合には、その金額が基金金額となり、超えた場合にはその目標金額に合わせて、一律で減らす。

目標金額を決める前に、報告第一号の月次財務状況の説明を聞くことになった。  
報告第1号 月次報告、キャッシュフローについて

赤尾事務局長が、配布資料をもとに、12月末日のキャッシュフロー状況を説明した。

\*12月に7000万円のキャッシュが入金された。

\*先月の未払い支出予定金に対して実際の支払い金額が少なかった。

\*1月以降3月までの個々の事業内容を確認し発生見込み金額が、少なくなった。

上記理由から、3月末で1600万円足りないところまで不足資金は少なくなっている(前月は4000万円弱足りなかった)。

#### (補足情報)

—5月にJOC、JSCの今年度の事業に対しての精算払いがされる。

—山岳スキースポンサー料金が、1—4月に払い込まれ、収入が増える見込み。支出は、変わらないが、上記増額分を次回キャッシュフロー計算に追加する。

—SC強化：JOCから追加補助があったが、それを使用すると、1/3がJMSCA負担となる。JOC負担が100%の事業のものを除いて、アジア予選が終了後、最終的に残金があれば使うが、なければ使用しない。

—SC強化、国際の使用内訳と残金について、現場委員会の試算と月次決算数値と異なるので別途確認が必要。

#### 法人管理費について、

\*1—3月に予定している退職者2名分の退職金も、キャッシュフロー計算時に考慮する。

\*管理費全体：予算に対して実績が、超過している。オーバーしている部分は、次のアクションとしてどうするかといったことを常に考える必要がある。

議案第3号に戻り、協議を再開した。

募集内容(案)は、以下のような案となった。

1. 基金目標金額：5000万円

(追加の借入金を返済して、自走できる金額)

2. 説明内容：損害賠償問題の進捗状況、日程等

2022年度損害賠償請求について旧理事1名保険申請。萩原弁護士から瀬田工業へ申請手続きを開始した。

3. 払込期日：3月8日(金)

4. 募集事項の配布方法について

書面で流すだけでは、どの岳連も対応しにくいだろう。

(大阪からの問題提起への対応や、詳細説明がないとだめ、責任問題は、最短でも2月末が最速という状況も含め。)説明会をできるだけ早く実施すること。

上記募集要項(案)について採決を取り、以下のように承認された。

(議長を入れて28名)賛成27名、反対1名(佐藤理事)

#### 今後の進め方について

\*今月中に説明会(1/21 10:00—12:00、1/22 18:00—20:00)を行なう。

丸会長、小野寺専務理事、望月常務理事、財務委員会で詳細を詰める。

\*銀行口座は、普通預金とし記帳ができることが必要。

\*来週中に臨時理事会(Zoomで実施。1/17 18:00から)を行う。

#### 議案第2号 登録選手規程細則改定(ガバナンス委員会)について

山口理事が配布資料を基に説明した。

5月実施(次年度)分から、値上げする件について採決を取り、承認された。

A登録 5000円—>7500円

B登録 19歳以上 2000円—>3000円

19歳未満 1000円据え置き

27名中(平田理事退席)。賛成24名、反対2名(濱田常務理事、赤尾事務局長)、棄権1名(畑中理事)

#### 議案第5号 スポーツクライミング選手選考基準変更について

安井常務理事が画面から説明した。

ワーディングについて一部変更が必要との意見が出た。詳細変更は、安井常務理事、西谷理事で決定し、後日、理事に共有する。

提案について、以下のように採決、承認された。

26名中(平田・樋口理事退席)、賛成26名\*、反対0名、棄権0名

\*山口理事：赤字の部分を分かりやすく変更することを条件としたうえで賛成。

#### 議案第6号 登山月報について

濱田常務理事が画面に表示した内容をもとに、月報支出抑制案を説明したのちに

以下の意見がでた。

—隔月発行でも、編集ボリュームは減らないではないか。

—印刷、発送にお金がかかっている。

—顧問参与を含み、希望者のみ、選択的に特定あて先のみ紙への出力と配布を残してはどうか。

—広告費(瀬田工業など)が収入として発生している。

—理事会報告を正確にしてほしいという要望も出ている。

—紙媒体による保管や、配布は岳連にとっても負担が大きい。

—顧問参与を含み、希望者のみ、選択的に特定あて先のみ紙への出力と配布を残してはどうか。それ以外の人は、Webからの取り出しとする。

松本委員長、前田理事、蛭田副会長で協議、議論し提案していただくことになった(顧問、参与委員会でも発表する)。

#### 議案第4号

全国理事長会議への質問事項に対しての回答責任者を以下のように担当することになった。

#### 質問事項への回答者

1. 古屋監事

2. 同上

3. 濱田常務理事

4. 丸会長

5. 赤尾事務局長

6. 丸会長、

7. 丸会長、町田SC部長

8. 望月常務理事

9. 赤尾事務局長

10. 古屋監事

11. 町田SC部長

12. 蛭田副会長

1月29日(月)までに事務局あてに送付。

その後理事会メンバーに配布する。2月3日に理事長あて事前資料として送付予定。

#### 7. 報告

報告第2号 新春懇談会について

小野寺専務理事が配布資料を基に、新春懇談会、顧問参与会の式次第、担当を説明した。また、全日では顧問参与会は行わないことを再確認した。

報告第3号 新潟全日大会について

望月常務理事が説明した。9月21日から23日で実施。環境庁、スポーツ庁、三井住友海上に後援依頼予定。

報告第4号 旅費について

赤尾事務局長が現状の執行状況を説明した。年間管理費旅費予算に対して、約22—25万円しか残っていない。

お願い：2—3月開催の事業が多くなる。1—3月の旅費執行何いの事前提出をお願いしたい(1月26日まで)。

超過金額の内：SC普及、競技会等で発生したのも一部管理費で計上されている。

負担先として各委員会へ変更する。

事務局の人間が事業サポートに行く場合には、その委員会に旅行費用を計上する。(例：事務局員がサポートに行った際に発生した旅費(45万円)事業したSC普及委員会が負担とする。)委員会でやるものは、委員会で予算化。

委員会に属さない理事が業務としていく場合には、委員会に請求する(旅行命令)。

請求先がどこか不明な場合には、小野寺専務理事、赤尾事務局長あてに送付。業務命令は、専務理事がメール等で行う。

(以下の報告議案は、常務理事会で決定した内容で、配布資料を基に小野寺専務理事が報告した。)

報告第4号 令和6年能登半島地震

1月13日新春懇談会で募金箱を設置し、石川県岳連あて送付する。

報告第5号 後援依頼書(住友商事イベント)について

報告第6号 公認大会申請について

報告第7号 指導員認定—登山部について

報告第8号 指導員認定—SC部について

(以下の2点については、蛭田副会長が説明した。)

報告第9号 クラウドファンディングについて

クラウドファンディングは延期、手ぬぐい等は来週配送。岳連に目的、内容を周知したうえで再立上げすることを伝えた。

報告第10号 UAAAのイベントについて

長岡市へ助成金申請予定。予算については、古賀登山部長に相談することになっている。地震による影響は今のところなさそう。事業規模を再確認することが必要。

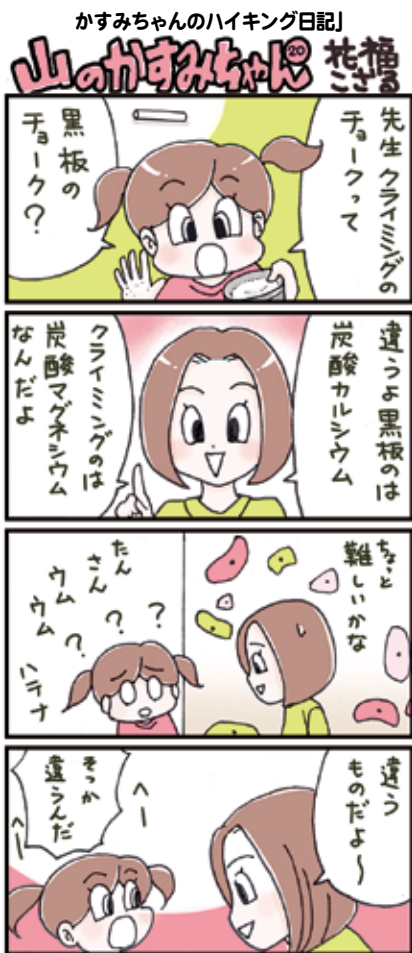
以上  
令和5年1月11日 記録 赤尾 浩一

#### 〈お詫びと訂正〉

「登山月報」No659号掲載で臨時理事会報告の番号が間違っておりまして、ここにお詫びして訂正させていただきます。

誤 令和5年度 第12回  
正 令和5年度 第13回





## 表紙のこぼれ

東京湾や浜金谷方面から望む鋸山は、新緑の中に見事な岩壁を見せている。標高はわずか329mほどであるが、ほぼ海岸から登るこの山は登りがいのある山である。北面の石切り場跡や南面の日本寺など史跡にも恵まれ、首都圏からのハイカーで賑わっている。

山上からの景観は東京湾を前景に富士山をはじめ丹沢や伊豆の山々の眺望も素晴らしい。また、富山、伊予ヶ岳、御殿山など、安房三名山の景観も楽しめる。

一般社団法人千葉県山岳・スポーツクライミング協会  
植草勝久

## 編集後記

4年ぶりに全日本登山大会(TOZAN Fes. 2024 in CHIBA)が開催されました。登山には参加できなかったのですが、各メーカーの販売会では色々購入できました。なかでもポーラテックの生地売りで、フリースを2メートル購入できたのは嬉しかったです。多くの人に参加するイベントは、登山の情報や楽しさを共有できて良いですね。

イベントと言えば今年の山の日イベントは東京で開催されます。8月の山の日イベントが待ち遠しいですね。山の日イベントは<https://www.yamanohi.net/>で確認できます。(松本光頭)

登山月報 第660号

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 (毎月1回15日発行)

発行日 令和6年3月15日  
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号  
 Japan Sport Olympic Square 807  
 公益社団法人  
 日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631  
 F A X 03-5843-1635

[山岳雑誌] 山と人、時代をつなぐ

# 岳人

4月号

特別  
編集

# 春山 2024

発売中

全国7エリア徹底ガイド

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



## ▶年間購読が断然おトクに!

年間購読 通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ 会員さまには、  
 モンベルポイント **5,000P**プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在年間購読中の方は、次回継続時に5,000ポイントをプレゼントします。

## 年間購読特典

岳人コンパクト  
フォーム  
パッド

手軽に携行できる  
軽量コンパクトな  
パッドです。



限定  
デザイン

岳人  
カード

全国2,000カ所以上で  
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設で  
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>  
<https://www.gakujin.jp/>



全国の  
モンベルストア  
でも受付中!

お問い合わせ  
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797  
 ※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。



# SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの普及支援</li> <li>自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング</li> </ul>	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりの支援</li> <li>先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応</li> </ul>	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等)</li> <li>災害に強いまちづくりの支援</li> </ul>

立ちどまらない保険。

**MS&AD 三井住友海上**

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会\*をめざします。

\*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会





# 日山協山岳共済会のご案内

安全登山は登山者の努め、  
山岳保険は義務。

ご自身のために、ご家族のために。

## 日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

## 2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課  
(2023年6月9日)

発生件数 **3,015**件(前年対比 380件増)  
遭難者数 **3,508**人(前年対比 431人増)  
死者・行方不明者 **327**人(前年対比 44人増)

